

築港中学校 学校跡地活用検討について

1 報告事項

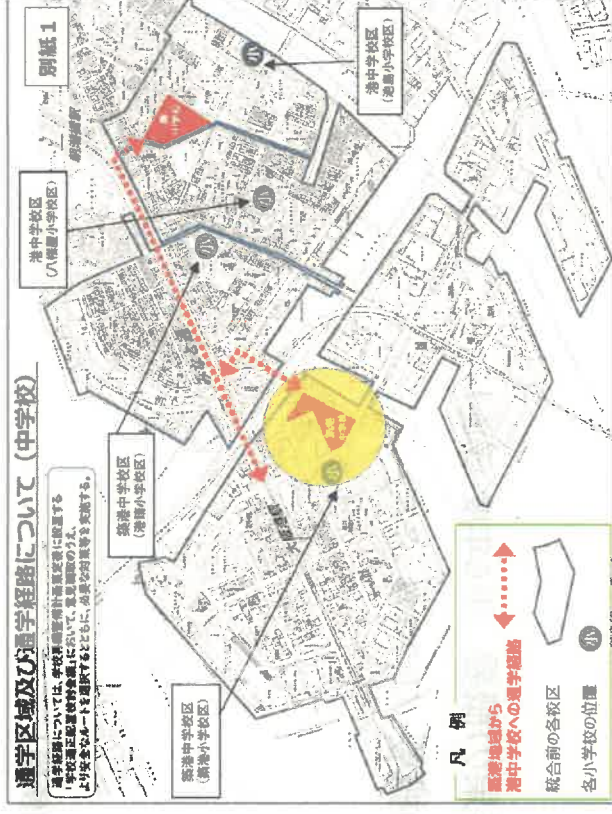
- ・ 経過
- ・ 築港中 概要
- ・ 築港中 校舎等の老朽度調査結果の概要 《R6年度 実施》
- ・ 築港中 校舎等の法適合調査の概要 《R7年度 予定》

2 参考

- ・ 今後の予定
- ・ 築港中の防災機能
- ・ 築港中における地域活動(恒常的使用)

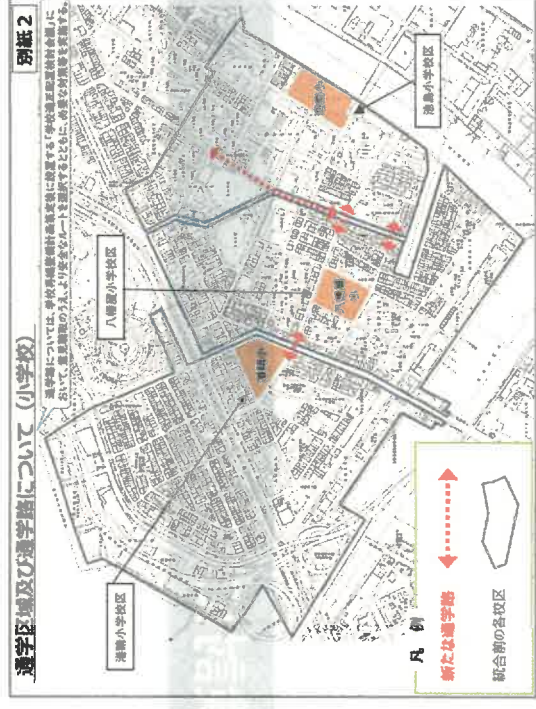
「港区西部地域学校再編整備計画」の概要 《R6.1.30教育委員会会議で承認》・・・抜粋

- ◆ 学校再編整備の対象校
 - (1)中学校 港中学校、築港中学校
 - (2)小学校 八幡屋小学校、港晴小学校、池島小学校
- ◆ 学校適正配置の手法
 - (1)中学校 港中学校、築港中学校を統合
 - (2)小学校 八幡屋小学校、港晴小学校、池島小学校を統合
- ◆ 学校適正配置の時期
 - (1)中学校 令和9年4月(港中学校の施設整備完了後)
 - (2)小学校 令和11年4月(八幡屋小学校の施設整備完了後)



第1回 築港中学校 学校跡地活用検討会議の概要

- 1 日時
 - 令和6年6月4日(火) 19:40～
- 2 場所
 - 港中学校多目的室
- 3 主なご意見(要約)
 - ・ 学校跡地のみをどう活用するという検討ではなく、赤レンガ倉庫群も含めた築港地域全体の繋がりを考えて学校活用を検討していく必要がある。
 - ・ 築港中学跡地をどうするかよりも、築港南の埋立地の計画を進めていた方が地域住民として一番の利益だと思う。
 - ・ 築港地域は、現状の閉塞感のままではいけないので是非ともお願いしたい。



基礎情報

◆用地域途：1種住居 <準防火地域>



◆航空写真



◆土地利用現況(R3年度)



◆築港中学校 概要等

【1F平面図】



【施設概要等】

所 管 局：教育委員会事務局
登記面積：約15,994㎡（建物敷地5,503m²、運動場10,491m²）
災害時避難所・一時避難場所／津波避難ビル・水害時避難ビル

【主な建物情報】

用途	構造※	建設年	経過年数	耐震改修	床面積
①校舎	RC	S53 (1978) 他	47年	H10 (1998)	4,537m ²
②クラブ部室棟	S	H 7 (1995)	30年	-	180m ²
③屋体棟	S	S53 (1978)	47年	未改修	723m ²
④特別教室棟	S	S53 (1978)	47年	H15 (2002)	303m ²
⑤プール専用付属室	RC	H30 (2018)	7年	-	64m ²
⑥武道場	RC	H 3 (1991)	34年	-	260m ²
⑦体育倉庫	S	S53 (1978)	47年	-	32m ²
⑧E V棟	RC	H15 (2003)	22年	-	79m ²

※RC：鉄筋コンクリート造 S造：鉄骨その他造

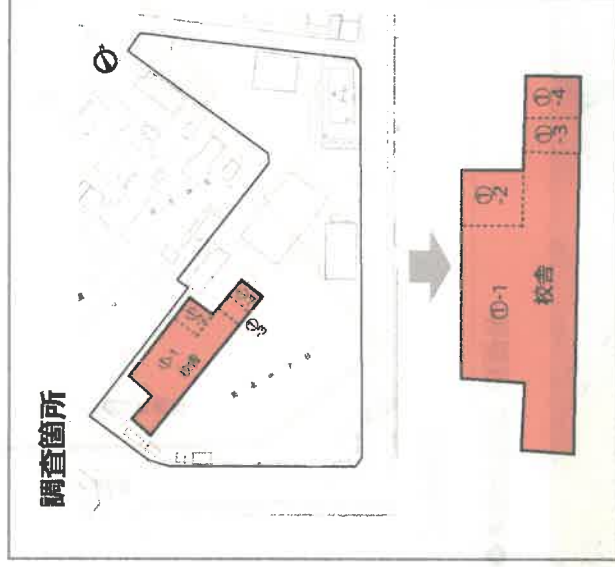
15m市道

6,178m²

上表は、公立学校施設等の台帳データを基本に公有財産台帳と照合し補正

調査概要

既存校舎の老朽度状況を確認するため、以下の調査を実施した。



検査所見

上記の結果により、必要なコンクリートの圧縮強度を有しており、また中性化の進行による耐震性能の低下の観点においても問題はない

(1) コンクリートの圧縮強度調査

各階の壁から3本ずつ合計45本のコア供試体を採取のうえ圧縮強度試験を実施

[調査結果]

コンクリートの設計基準強度より、実測値が上回っており、問題はない

(2) コンクリート中性化深さの測定

圧縮強度試験終了後の供試体により中性化深さの測定を実施

[調査結果]

コンクリート中性化深さは、実測値が鉄筋の最小いかり厚さ(30mm)以上に進行している箇所はなく、急速な耐震性能の低下や建物の劣化に問題はない

築港中学校 校舎等の法適合調査の概要 《令和7年度 予定》

調査概要

建築基準法等関係法令の適合性を確認するため、本調査を実施する。

- (1) 現況測量
- (2) 建物及び校舎内の現況図作成
- (3) 建築基準法等の関係法令の適合性確認

学校跡地活用の基本方針

「未利用地の活用に伴う定期借地制度等運用指針（R6.4改正）」に基づき、災害時避難所などの地域防災拠点機能及び防災訓練などの地域全体のコミュニティ形成に資する活動拠点等の機能を継続していく必要がある学校跡地として活用

築港中学校における「地域防災拠点機能」

	説 明	築港中学校 避難可能人数【人】
災害時避難所	浸水や倒壊により自宅で生活できなくなった市民が避難生活を送る施設で、学校の体育館など	810
一時避難場所	地震時等の一時的な避難先で、公園や広場、学校の運動場など ※津波、洪水（河川氾濫）時は、使用不可	12,580
津波避難ビル	津波や洪水（河川氾濫）時の緊急的な避難先で、堅固な高層建物の3階以上の階など	1,120
防災訓練などの活動	避難訓練、ジュニア防災リーダー養成講座	

※備蓄物資の配備状況
飲料水（500ml） 1,320本、アルファ化米 900食、ビスケット 150食、災害用トイレ 9基
他 毛布、防水シート（ブルーシート）、ラジオ、懐中電灯、給水袋、救助用資器材等を備蓄

港区防災マップ 抜粋（R7.6.30現在）



津波避難ビル
一時避難場所
災害時避難所

7 築港中学校 [24時間]
18 築港小学校 [24時間]

一時避難場所（公園）

30 築港南公園

津波避難ビル

45 ポートサイド築港（UR） [24時間]
52 海岸通ハウス [24時間]
60 Osaka Metro 大阪港駅 [24時間]

福祉避難所

19 特別養護老人ホームザイオン大阪港

「学校体育施設開放事業」「生涯学習事業」

	使用場所	使用内容	使用状況		使用団体	参加者数	備考
			曜日	時間			
学校体育施設 開放事業	体育館	バドミントン	毎水・毎土	19:30～21:30	築港中PTA	12人	
		卓球	毎月・毎木	19:00～21:00	築港中PTA	10人	
		バレーボール	毎火・毎金	19:00～21:00	築港中PTA	13人	
	体育館 or 格技室	剣道	毎月・毎木	19:00～21:00	築港中PTA OB	15人	
	テニス場	テニス	毎日曜	9:00～16:00	築港中PTA OB	14人	
生涯学習事業	運動場	ソフトボール	第4日曜	8:00～12:00	築港中PTA	15人	
	体育館	マーチングバンド	毎日曜		大阪ジュニアバンド	40人	概念上の拠点 は築港小

(参考) 生野区における避難所機能と地域活動

①避難所機能

- ・御幸森小：運動場及び講堂のほか多目的室及び8教室以上を開放
- ・生野小：運動場及び講堂のほか校舎を開放
- ・生野南小：運動場及び講堂のほか多目的室及び11教室以上を開放
- ・林寺小：運動場及び講堂のほか普通教室9教室、特別教室6教室以上を開放

②地域活動

- ・基本的に、引き続き地域活動が実施できるよう施設を無償で提供することを条件、跡地検討会議において、地域活動の精査を事前実施

